

■平成 31 年度 前期選抜 入試問題分析【英語】

■問題分析

1. 全体を通して

長文問題にあった語順整序問題が第二問に移動したが、それ以外は大きな変更点はなかった。昨年度記号問題の配点は 48 点に対して今回は 59 点であったことから、平均点は 49.9 点から上がると予想される。第五問の英作文はコミュニケーションの延長線上にある形式が続いており、今後もその傾向が続くように予想される。難しい問題は少なく、高得点が狙える問題だった。

2. 大問ごとの分析

第一問は会話文に関する基本問題である。内容・レベルは平年並みであり、難度は低い。

第二問は語彙や文法に関する基本問題で、こちらも平年並みであり、易しかった。昨年度よりも配点が 7 点分増えたが、これは語順整序が長文読解から移行されただけである。適語補充が 1 問減り、適語選択(記号)が 1 問増えた。基本的な問題が多いのでここも取り切りたい。

第三問是对話文の問題である。英問英答は 1 題増え、内容合致問題の選択数も 1 つ増えているが、答える内容は素直で難しくない。人称代名詞を固有名詞に変えることが徹底されていればきちんと得点できた。

第四問の①は対話文の問題である。語順整序がなくなり、設問内容や順番に少し変更があり。その中でも現在の日付を書かせるのは真新しい。(昔は曜日を書かせる問題ならあった) 文脈をしっかり読み取る必要がある。要約のような設問はあるが記号選択で易しい。②は英作文の問題である。配点が 19 点から 12 点に減り、内容はとても易しくなった。設問は 2 題しかなく、そのうち 1 題は中学 1 年生も解ける問題である。

■出題・配点一覧

単元	形式・内容	問題数	配点	小計
会話文	記号選択	9	18	18
語彙・文法	適語選択	4	8	22
	単語の補充	2	6	
	語順整序	2	8	
長文読解	記号選択	3	9	21
	日本語での記述	1	4	
	英問英答	2	8	
対話文読解	記号選択	4	12	27
	英問英答	1	4	
	日付の記入	1	3	
	日本語での記述	1	4	
	時系列による整序	1	4	
英作文	1 文の補充	1	4	12
	3 文以上の英作文	1	4	